大分合同新聞

ワークシート

大分県人口激減へ

年	組	名前

厚生労働省の研究所の発表した人口推計によると、大分県の人口は2010年の119万6529人から、40年には95万5424人に減る見込みです。

①同時に発表された大分県の高齢化率の推移は、どう推計されていますか。

……

……

……

……

②人口減少が続くと、どういった問題がありますか。

……

……

……

……

③大分県の抱える課題や、人口減少を防ぐための手だてを考え、話し合ってみよう。

……

……

……

……

厚生労働省の国立社会保障・人口問題研究所が発表した人口推計によると、大分県の人口は、2010年の119万6529人から、40年には95万5424人に減る見込み。全国平均をかなり上回る減り方だ。県や地域社会の活力を維持するためにも、減り方を緩やかにする取り組みが求められる。

推計は10年の国勢調査を基にしている。10年の人口を100とし、40年の人口と比較した大分県の指数は79・8。全国（83・8）を4㌽も下回り、全国順位は23位。

大分県は05年の国勢調査を基にした前回の推計後、予想より緩やかな減り方となった。今回もそのような傾向を望みたい。ところが、このほど総務省が発表した12年10月1日現在の人口推計によると、大分県の人口増減率（前年比）はマイナス0・51％と全国31位。悪い出足で、先行きが心配だ。

同研究所の今回の推計では、今後高齢化が急ピッチで進む。大分県の高齢化率は、10年の26・6％から10㌽上昇し、40年は36・7％と3分の1を超える。

論説 2013.5.5

大分県人口激減へ

子どもの人数を増やそう

人口減少は国から地方への交付税の削減、税収の減少に直結し、高齢化は医療や介護など住民サービスの需要が増えることになる。つまり収入減と支出増が自治体の財政を同時に圧迫する。

大分県は中山間地域が多い。集落が点在する環境では、住民サービスを保つことはますます困難になる見通しだ。

人口減少には、自然減、社会減、晩婚化などいろんな要因が絡まる。大分県のアキレスけんは年少人口（15歳未満）の少なさ。つまり、子どもが少ないことだ。

10年の大分県の年少人口割合は13・0％。九州・沖縄の他県はかなり高い。沖縄県は17・7％と全国一。九州・沖縄で大分県に次いで低い福岡県でも13・5％ある。九州・沖縄で全国平均（13・1％）を下回っているのは大分県だけ。原因について、県の分析が不十分なのも心もとない。

厚生省時代、少子化をテーマにした「厚生白書」をまとめた椋野美智子大分大学教授は「大分県の場合は、女性が仕事と出産の二者択一を迫られる構造を変えねばならない。そのためには夫が育児や家事を引き受ける時間を増やす必要がある。保育所や放課後児童クラブをもっと充実して母親を支えるべきだ。首長、議員、管理職、審議会委員などに女性が少ないのも問題」と指摘している。

県は人口減少対策の柱として①企業誘致などで雇用の場を創出②子どもを生み育てやすい環境づくり③助け合い支え合う「地域力」の強化―を挙げている。

大分県の場合、大分市への一極集中にも問題がある。大分市はもちろん、中津市、佐伯市、日田市などが、県人口の流出を食い止めるダムのような役目を果たしてほしい。そのためには、地域を支える農業、林業、水産業、観光などの振興を図らねばならない。Uターンや、やる気のある若者の受け入れも必要だ。

若い夫婦が希望する人数の子どもを生み育てるためにも、「子育て満足度日本一」の実現が求められる。人口減少は県、市町村、各種団体、地域社会などが一丸となって真剣に取り組まねば、改善できないような難題である。

（写真は臼杵市すえひろ保育園の新春恒例行事「貝合わせ大会」）

（2013年５月５日朝刊２面）